

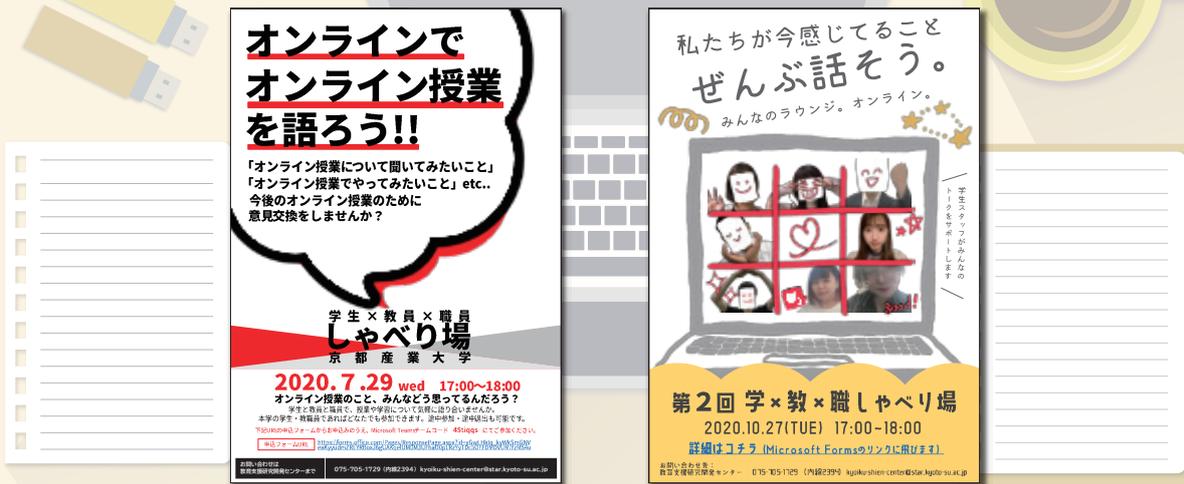


～三者が話し合うことで お互いを理解する～

新型コロナウイルスが全てを変えた

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、大学教育が激変しました。本学の春学期授業は全てオンライン授業となり、学生だけでなく、授業を実施する教員や大学運営を行う職員にも多大な影響を及ぼしました。

秋学期からは段階的に対面授業を実施しましたが、多くの授業がオンラインでの実施となりました。コロナ禍のオンライン環境では、対面と比べてコミュニケーションが制限される傾向にあり、教員や他の学生との関わりが阻害されることにより、主体性や学習モチベーションを発揮しにくい状況におかれていることが推察されました。



第1回(左)、第2回(右)のポスター
大学の電子掲示板POSTや学内掲示板に掲示するなど、周知を行いました



第1回、第2回の学×教×職しゃべり場の様子
学生、教員、職員の三者が立場を越えて教育や大学について大いに語っていただきました

そうだ、しゃべり場を 開催しよう

教育支援研究開発センターにとって、コロナ禍における学生の円滑な学習について検討することは本学の教育の質を担保するための重要な課題の一つであると考え、学生、教員、職員の三者が参加するしゃべり場を開催しました。今年度はしゃべり場を2回開催し、それぞれ異なるテーマを設定しました。



第1回 学×教×職しゃべり場

日時：7月29日(水) 17時～18時
形態：Microsoft Teams(オンライン)
参加者数：学生・教職員31名

当日は5つのグループに分かれ、それぞれのグループで語り合ってもらいました。良いオンライン授業とは何かについて、学生からは「学生同士のディスカッションや議論ができること。オンライン授業となったことで学生同士の関わりが少ないので、自分の意見が言える、話せる、人と関われる機会が欲しい」や「課題に対してしっかりとフィードバック、対話をしてくれるとモチベーションが上がる」といった意見が出ました。また、教員からは「資料の掲載だけでなく、音声の解説もあった方が良いか」や「少人数講義は対面の方が良いか」といった、これからの授業運営の参考となる質問などがあがりました。春学期は学生、教員、職員の三者が話す場が極めて少なかったため、参加者同士の貴重な交流の機会となったようです。



第2回 学×教×職しゃべり場

日時：10月27日(火) 17時～18時
形態：Zoom(オンライン)
参加者数：学生・教職員18名

第2回は、有志の学生スタッフと共に企画・運営を考え、コロナ禍の中で学生が抱える様々な思いを共有できる場を目指して、「私たちが今感じていること全部話そう」をキャッチコピーに実施しました。当日は4つのグループに分かれ、各グループにファシリテータ役の学生スタッフと職員スタッフが入り、初対面の参加者がオンライン上でスムーズにコミュニケーションできるよう、進行を担いました。

秋学期は対面授業とオンライン授業のハイブリッド形式となったため、学生が春学期からどのような変化を感じているのか等が話題となりました。オンライン授業のメリットを感じつつも、先生や友人と気軽にコミュニケーションを取れないことで悩んでいる学生も多く、「授業に関して教員に質問するのを遠慮してしまう」という学生に対して、「学生からの質問は大歓迎、どんどん質問をして欲しい」と教員がエールを送ったり、先輩学生が1年次生を励ましてアドバイスをするなど、参加者同士の貴重な交流の機会となったようです。

今後の展望



本学では、今後も学×教×職しゃべり場を様々な形やテーマを設定して開催したいと考えております。こんなテーマで開催して欲しい、しゃべり場を開催したいので共催したい、ノウハウを教えて欲しい等がございましたら、教育支援研究開発センター事務室まで是非、おたずねください。

